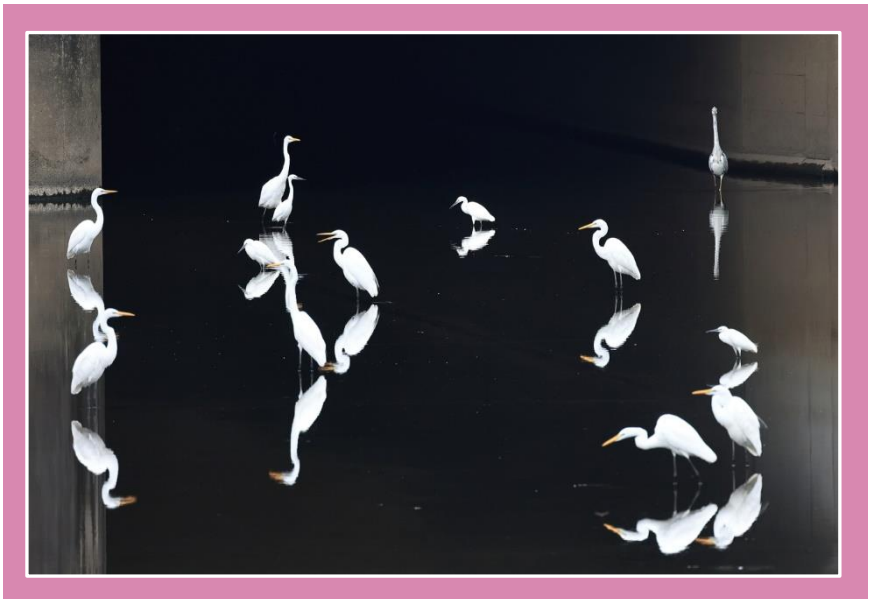
日機連かわら版

第２０３号

2022 年 10 月 18 日（火）



目　次

■業界得々便　・・・・・・・・・一般社団法人 日本冷凍空調工業会

第 13 回「エアコン暖房川柳」大募集！

■かわら版・歳事記 ・・・・・「深まる田舎の秋」 ～秋を彩る虫の声～

■お知らせ

かわら版バックナンバー

日機連ではホームページを開設しておりますのでご利用下さい。

http://www.jmf.or.jp/　（禁無断転載）

一般社団法人 日本機械工業連合会　東京都港区芝公園３丁目５番８号 機械振興会館 03-3434-5381

業界得々便

(一社)日本冷凍空調工業会からのお知らせです。

立冬は「エアコン暖房の日」

主催　(一社)日本冷凍空調工業会

第13回

「エアコン暖房川柳」大募集！

応募期間：　11月7日(月)まで ※必着

応募はハガキで、1人につき3句まで

(一社)日本冷凍空調工業会は、「エアコン暖房の日」の認知拡大キャンペーンとして、9月23日(金・祝)より第13回「エアコン暖房川柳」の募集を開始しました。

「エアコン暖房の日」を通して、毎日に笑いあり涙ありの家族模様、日常のちょっとした出来事、気持ちが温かくなる冬の風景などを、川柳で表現してみませんか。

賞　品：	最優秀賞	1名様	3万円分の図書カード
	優秀賞	5名様	1万円分の図書カード
	佳　作	10名様	5千円分の図書カード

皆様からのご応募、お待ち致しております。

詳細はコチラから

過去の最優秀作品

第12回	エアコンで　今日も在宅　温ライン	千葉県　ほり・たく様
第11回	エアコンで　GO TO 南国　おうち旅	長崎県　おーちゃん様
	エアコンは　全集中で　冷気滅	宮崎県　おがらいと様
第10回	エアコンで　令和の冬に「冷」はなし	埼玉県　坂の上の雲様

かわら版・歳事記

深まる田舎の秋

～秋を彩る虫の声～

10 月も中旬となった。今年はいつまでも残暑が続き暑かったが、10 月に入りスポーツの日の 3 連休前に気温が大きく下がり、東京では 10 月上旬としては 88 年ぶりの師走並の寒さなどと報道され、季節外れの暑さや寒さの騒ぎとなった。

◆青々とした二番穂の風景

天候がなかなか秋らしく定まらない昨今であるが、散歩では色々と秋の風情に出会う。既に稲の収穫は終わり、刈り取られた稲の株からは二番穂が出ている。

稲の収穫の際、群がってコンバインのそばに飛来していたシラサギ類も収穫の終わった田圃にちらほらと見えるだけである。この二番穂は遠くから見ると青々として田植えの直後のような感じがするが、この二番穂はいわゆる樹木等でいう蘖(ひこばえ)で、伐った木の切り株などの根元から新たに出る芽のことである。

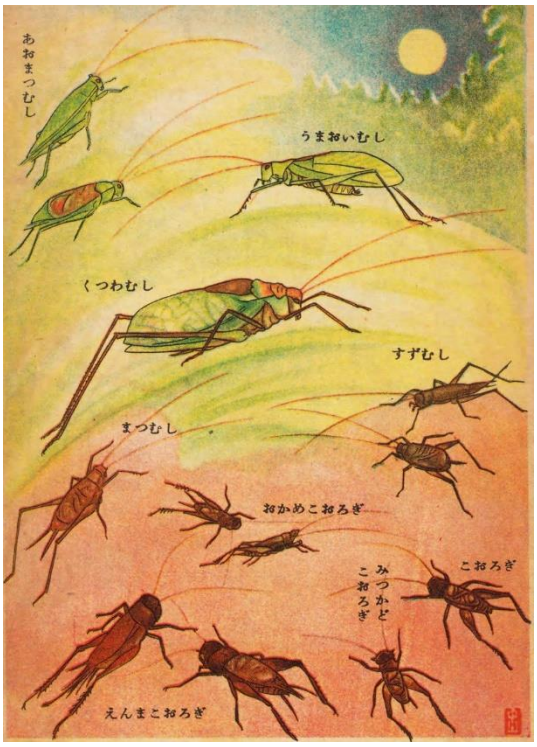
稲は木ではないが二番穂または稲孫(ひつじ)といわれる蘖が出る。これは稲の成長力(生命力)が強い証拠でもある。二番穂は刈り取らず、後日、田に鋤き込まれるが、野鳥の餌にそのままにしておくこともあるという。

田植え直後のような二番穂

◆野道に集(すだ)く虫の声

散歩をするのは夕方の 4 時頃から約 1 時間程度であるが、10 月の中旬頃はまだ明るい。たんぼ道を歩くと周りの草むらから虫達の鳴き声が、周囲に反響するように聞こえる。

秋に鳴く虫はキリギリス類とコオロギ類があるが、筆者の歩く道では圧倒的にコオロギ類が多い。とくにエンマコオロギのコロ、コロ、コロという連続音の鳴き声や、あるいはコロ、コロ、コロリーという鳴き声がひときわ耳につく。



秋の生物：観察図絵　夜なく虫
中山周平著　国会図書館デジタルコレクション

枕草子にも「秋は夕暮れ・・・日入りはてて、風の音、虫の音(ね)など、いとあはれなり」とある。日本ほど、いろいろな秋の虫の鳴き声を楽しめる国は少ないだろう。

秋に鳴く虫というので気候がやや涼しくなると盛んに鳴き始めるように思われるが、実際はそうでもないようである。秋の虫の鳴き声は 8 月の初め頃から聞かれるようになるが、8 月は鳴き声の大きいセミの声にかくれ、めだたないこともある。

◆秋の鳴く虫いろいろ

秋に鳴く虫はキリギリス類とコオロギ類と書いたが、コオロギ類の代表的なものはスズムシ、マツムシ、エンマコオロギ、オカメコオロギ、カネタタキなどがおり、キリギリス類にはキリギリス、ウマオイムシ、クツワムシ、ヤブキリ、ササキリなどがいる。

それぞれの面々を見ても、キリギリス類は名前からしてやかましそうな連中がそろい、コオロギ類は繊細な涼しげな声良しがそろっているように筆者には思えるがいかがなものであろうか。

誌面で鳴き声を出すことはできないが、電子辞書やパソコンでは容易に鳴き声が聞ける。コオロギ類ではスズムシがリーン・リーンと涼しげな澄んだ金属音、マツムシはチン・チンチロリンとさいころ賭博の名前のような鳴き方、オカメコオロギはリ・リ・リ・リと四、五声続けて鳴いたり、チ・チ・チ・チと鳴いたりする。

カネタタキはチン・チン・チンと静かに鐘をたたくように鳴く。一方、キリギリス類はキリギリスがチョンギース、ウマオイムシはスイーチョン、クツワムシはガチャ・ガチャと秋の虫の中では最もうるさい。

ヤブキリはチョンギースと高い音で、ササキリはジリ・ジリ・ジリまたはジー・ジー・ジーと鳴く。なお、人間の方言や訛りではないが、識者によれば虫の鳴き声は地方によっても違うらしい。

ウマオイムシの例では東京地方では張りのあり調子で「スイーッチョン・スイーッチョン」と鳴き、西日本では「シッチョ・シッチョ」と短く早口で鳴くものが多く、四国では張りのある声で、「シンヤー・シンヤー」と鳴くという。

◆秋の農村を飾る柿の木

虫の鳴き声を聞きながらたんぼ道を歩いていると、所々に点在する農家の庭にはちょうど今頃(10月初旬～中旬)、柿の実が朱く色づいている。色づいた柿はその葉とともに秋の農村の風物詩ともいえる。

柿の落葉はよく見ると、真っ赤に紅葉した部分とやや橙色の部分、緑の部分のコントラストが美しい。日本の秋をしみじみと感じさせる柿の木は、日本の風土に非常に適した植物で、あまり手を掛けずによく実がなるので好んで植えられたという。

しかし、散歩しながら見ると、最近では農家の庭などでも柿の木のある家はだんだん少なくなっている。

農家の庭先の柿

一方、農家集落に隣接する新興住宅地の庭などにはこぢんまりと仕立てた柿の木をよく見るようになった。

陶工柿右衛門が魅せられた柿の実の色は黄色の発色色素のカロチノイドと赤の発色色素のアントシアニンとの混合によるものという。

また、柿の渋味は果実中のタンニン質のシブオールによるもので、これが不溶性か可溶性かで甘かったり渋かったりする。

甘柿が甘いのは熟すに従って可溶性だったシブオールが不溶性(柿の中の水分に溶けない)になるためで、シブオールは水に溶ける可溶性の間は味覚が渋く感じるという。

◆秋深まらないわが家の庭

シュウメイギク

深まる秋を反映し、我が家の庭も秋らしく木々が装いを変えたとなれば結構であるが、残念ながら紅葉、黄葉するような木は少ない。

40 年ほど前に引っ越してきて、庭に植える木を選ぶ際、落葉樹は落ち葉の清掃が面倒なのでなるべく常緑樹にした経緯もある。ただ、それなりに秋の風情を楽しめるように工夫をしたつもりである。

中秋から晩秋・初冬に花を楽しめるようにキンモクセイ、サザンカ、ヒイラギ、シュウメイギク(木ではない)など、また、実を楽しむためユズ、ナンテン、クリスマスホーリーなどを植えている。

今年は気候の関係で秋の訪れが遅いせいか、例年10 月の初めに咲き始めるサザンカはまだ蕾の状態、ナンテンの実もまだ青い状況である。早く秋らしい庭の佇まいを期待する今日この頃である。

（猫じゃらし）

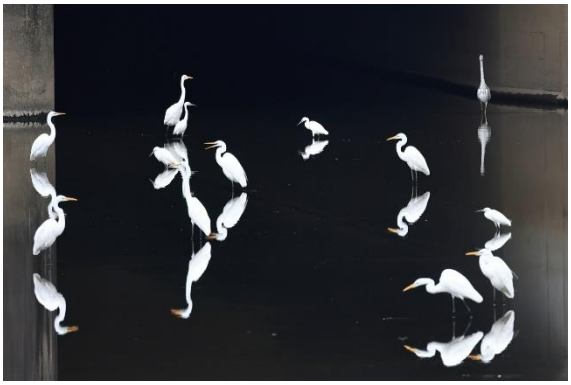
生うつし四十八鷹　目じろ柿
国会図書館デジタルコレクション

お 知 ら せ

◆表紙の写真

サギ類(鷺)

千葉県我孫子市（2021 年 10 月撮影)



撮影 渡邉俊文さん

（元日本精密測定機器工業会 専務理事）

◆ご意見募集

日機連では、今後の活動の参考にさせて頂くために、会員の皆様からのご意見、ご要望をお待ち致しております。

また、「日機連・かわら版」に対するご質問、ご意見や日機連の活動に係る全般的なご意見、ご要望など下記までメールをお送り頂ければ幸いです。

メールアドレス koho@jmf.or.jp